

寺 報 善 巧

発 行

☎ 938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 4 9 7
白雪山 善 巧 寺
☎ 宇奈月 0765(65)0055

寺
ごよみ

四
月

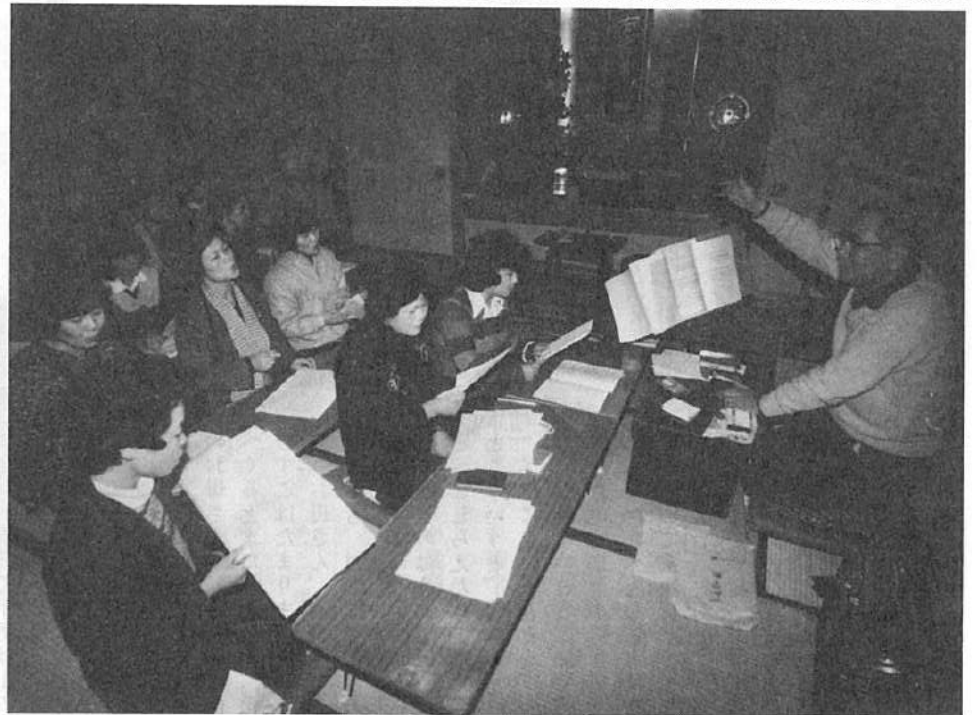
一日 お講 下村

講というのは経を講じるということ、仏様の教えをわかりやすく話すという意味ですが、古く親鸞聖人の時代から、それを聞く側のあつまりをお講というようになりました。善巧寺のお講もお寺がはじまって以来五百年つづいている伝統ある行事で、勤勞奉仕が主たる目的ではなく、あつまって話を聞くことが大切です。よくご存知のはずですが念のため。

八日 うらやま日曜学校入校式
この日はおしゃか様の誕生日でもあります。甘茶をいただいて新入生を迎えましょう。

一六日 お講 栗虫

二九日 慶びの春 すべての生命の誕生を祝う善巧寺ならではの花まつり。赤ちゃんの初参式もありますので必ずおまいりいたしましょう。



春を呼ぶ歌声一別院百周年の祝典に出演のため讃歌の練習にはげむ善巧寺若婦人会の皆さん。

慶びの春

四月二十九日 午前十時より

初参り、チューリップ、縁日
家族そろってお参り下さい。

本年は、一月、二月、三月と、毎日のように降雪の日が続き、本当に雪に悩まされた年でした。皆様にも、除雪作業に御苦労が多かったことと思います。

雪国の冬の憂うつは、お互いに同じ思いで、冬の季節の暗さが続けば続く程、春を待つ心が沸々と湧き出て参ります。

善巧寺でも、大規模の除雪を十人掛りでやって頂きました。たし、凍結の結果の本堂、庫裡の水もれて、散々な目に遭いました。春になり次第、欠陥箇所を見つけて、修理修復に取りかかるつもりです。

暗い冬の後には、必ず明るい春がやって来ます。来るべき春光を、お互い期待しましょう。私の書齋に、作家、檀一雄の色紙を飾っています。

「モグリ笛 幾夜もがらせ 花に逢はん」という俳句です。此の句の前半は、憂うつな冬の表現ですし、後半は、来るべき春の光明への期待であり、願望です。

檀一雄は、私の親友だったので、昭和五十一年一月二日、肺がんで亡くなっています。右の句は、檀一雄の絶筆となったのです。五十年十二月二十八日、奥さんに色紙を要求して、彼は、最後の絶筆を色紙に物したのですが、この

春を待つ心

時、彼の「がん」は、各所に転移していた筈です。

「モグリ笛」というのは、冬の季語で、歳時記には「冬の烈風が、棚、竹垣等に吹きつけて、笛のやうな音を発するのをいふ」とあります。

病床の檀一雄の晩年は、苦しい辛い幾夜を、身体の中を吹き抜けるモグリ笛の切ない響を聞き乍ら、どんなに花の春を待ち望んだことでしょうか。

「花に逢はん」の字余り六字は、暗黒の穢土から、光明の浄土を希う思いの表現です。いや、間違はなく生まれることを信じての、花の極楽世界を目前にした悦びだったのではないでしょうか。

善巧寺の春は、四月二十九日の、花祭り、初参りの祝典です。境内一ぱいのチューリップの装飾の中で、門徒、老幼男女の法悦の一日を、待つこと切なるものがあります。

挙って参詣下さるよう御案内致します。

住 職

雪山 俊之

空と筆と



明教院
僧鎔伝

聞思して遲慮することなかれ

利井興弘師



誠なるかな 攝取不捨の真言

超世希有の正法 聞思して遅慮す

ることなかれ——これは親鸞聖人のお書きあそばされましたご本典の総序のご文のおことばでござい
ますが、この聞思莫遲慮というこ
とばは、明教院僧鑑師も好まれた
ようで、遺墨としてみなさまのお
手元にも届いているようでありま
すが、私のじいさん（勸学 利井
鮮妙師）もよく書いたようです。

で、これからお話ししますことは私も非常に感銘が深いのでございまして、私のじいさんが生きておったときのことです。当時日本で、だれが一番ありがたい人かということで、文部省が苦労したという話があるんです。なぜそんなことになったかとい

いますと、あなた方もよくご存知の、アインシュタインという相対性原理を解いた博士が、アメリカから日本へやってきたことがあるんです。そこで、アインシュタインがいったのが、日本で一番ありがたい人に会わせてほしい、と、こういうたわけです。

文部省も面くらった。原子論など物理のえらい先生ならだれだってすぐ挙げられるけれど、ありがたい人というと、なかなかわかるもんじゃあない。そこでまあ、あちこち調べまわって、人にいろいろ聞いたところ、お東の先生でございしますが、近角常観という方が一番ありがたいお方ということになった。

そこで、アインシュタイン博士が近角先生と会われるわけですがそのとき、アインシュタイン博士が何を聞かれたかというところ、

「この世の中に神や仏はありますか」

ということでした。そして近角

先生はそつけなく、

「あなたのようなお偉いの方が
あると思われたらあるでしょう。
ないと思われたらないでしょう。」
と、こう答えた。博士も面くらつ
たでしょうね。そこで、先生はつ
けくわえて、

「日本にはこんな話がありますよ。」

といつて、お婆捨て山の話を書き
 った。村の掟で年寄は山の中へ捨
 てねばならない。そこで自分のお
 母さんを背中に負つて山へ登るわ
 けでございます。そうすると、山
 の中、だんだん道がせまくなる。

するとその道をまわるときに背中のお母さんが枝を折る。曲がり角へくるとまた枝を折る。そこで、

「お母さん、本当のことをいうけれど、村の掟でもうあんたは帰ることができません。どうか枝を折るのはやめてほしい。道しるべこしらえたつてだめなんです」というと、母親が、

「なにをいうとるか、わたしはもう帰れないことは知っているけれども、おまえが帰り道で迷ったならばたいへんなことになる、そう思って枝を折って道しるべをこしらえているんだよ」

というんですね。この話をしたら、博士、あなたは外国から日本までやってきて、神や仏がありましかと聞かれるけれど、あなたをこれまで育ててこられた方々のことを考えられたことがありますか。じつと考えてごらんさいと近角

先生がおっしゃると、アインシュタインが、
「われ、日本に来て、はじめて神を見た」といったという名高い話があります。

一六日
お講
音沢

寺
こよみ

五月

お 寺
お 講 ころみ

五月

一日	お講	音沢
一六日	お講	音沢

二六日 別院開創百周年慶讃法要
この日は黒西組（こくせいそ）

つまり私たちの組内の参拝日です。送迎バスも出ますので、そろっておまいりいたしましょう

二七日 慶びの集い五千人大会

富山市体育館で二門主を囲み越中門徒五千人が集います。全員でお正言喝をよんだあと、善巧

寺の婦人会も参加する二五〇人の大コーラス。そのあと若院や雪ん子劇団、吉岡たすく先生や

浜美枝さんのお話し会があり、
アトラクションは春日八郎ショ

「二度とない催しだから、是非みんなでまいりましょう！
 慮することなかれ」

でありました。いまお話ししていても胸が痛くなる思いであります。そのご文を口にしたあとと鮮妙は涙ポロポロと落として、南無阿

弥陀仏南無阿弥陀仏とお念仏。そして
したら前にいた近角先生も同じよ

うに手を合わせて、南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏と二人向かいあって
十分ほどお念仏していたようす
です。

そして、時間がきて、近角先生
がお歸りになった。で、次の年、
また先生がお越しになった。

写真でつづる

1月21日
2月2日

仏教遺跡巡拝の旅

インド

おしゃ様のめあとを慕いて、善巧寺の門徒衆と、この冬、インド・ネパール・スリランカの仏跡参拝の旅に出かけてきました。新聞でもご承知のように、イン

ドのカルカッタでは、仏教の総本家ともいえる大菩提会を表敬訪問し、黒部市長の「建立二十周年を迎える宮野山の仏舎利塔に菩提樹を」というメッセージをとりついでと、同会とグラナターナ総長が快く意を汲んで下さり、この春、菩提樹のタネがインドから届くことになりました。(写真①)

次はラジギール。写真でご覧のように青空の下、一行が感激にふるえながらおつとめをしています。ここは、あの仏説無量寿経、観無量寿経など数多くのお経を説かれた説法の場です。(写真③)

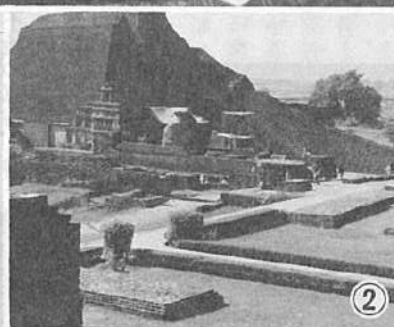
そしてブタガヤ。ここは宮野山の仏舎利塔の本家、おしゃ様がさとりを開かれた聖地です。何万の仏教徒が毎日毎日ここを訪れ、仏徳讃歎のおまいりをしています。(写真④)

れ、そしてこの町のはずれのサールナートというところで、はじめての説教をなさいました。いまそこには、ダメークの大塔がそびえています。(写真⑤)

ベナレスにはもう一つの聖地、ガンジス河があります。ヒンズー教徒がインド中からあつまつてきて、夜明けから聖なる河で沐浴をし、そのすぐそばではなかなたの方が母なるガンジスに帰るべく、茶毘に付されていきました。無常とはこのことかと一同絶句。(写真⑥)



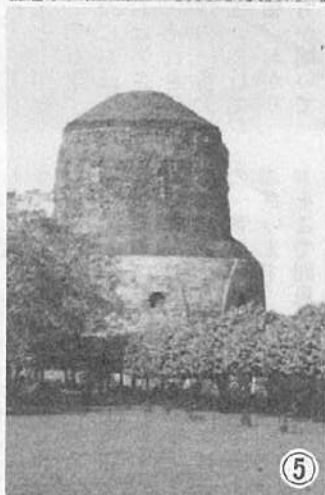
①



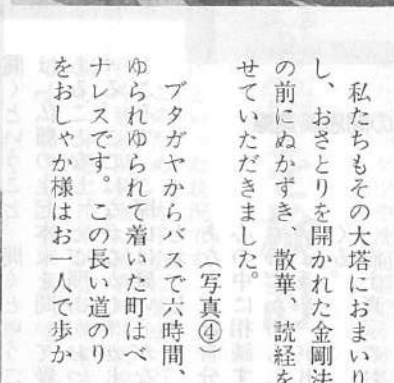
②



③



⑤



④



⑥



変わつたような感じがします。来年もぜひ訪れたい」と感激。門徒の鬼原、佐々木、谷口、川瀬、栃沢、大藪、岩上、古田さんたちも「ありがたかった。すばらしかった。生涯のいい思い出ができました」とよろこんでおられました。

ヒマラヤの麓、全民族の精神文化のメッカといわれ、文明の果ての何かを求めて、世界中の人たちが訪れてくる国。

その首都、カトマンズでは、民家の数よりお寺の数が多いといわれるほどで、写真のお寺はその町のシンボルともいえる、目玉寺です。ちよつとおそろしげなこの目は真実の目、四方に描かれていてすべての人を見つめています。

(写真⑦)

幸多き島、緑いっぱいの島、そして二千数百年、おしゃか様の教えを聞きつづけ、守りつづけてきた国。北海道ほどのこの島国を四日間バス旅行。

最初に訪れたのは祭りの都、キヤンディ。おしゃか様の歯をまつた仏歯寺は夜の更けるまで笛と太鼓が鳴り響き、仏歯を一目おがも

うとする人たちがいっぱい。

キヤンディから九〇キロほど走ると、高さ一九五メートル、ライオンに似た岩山があります。これがシギリヤで、世界的に有名な美女の壁画が千四百年前のものとは思えない水々しさでほえんでいます。

(写真⑩)

そして、ポロンナルワ。広大なこの仏跡地には、最近TVのCMにも出てくるおしゃか様の涅槃像が横たわっています。

つづいて、スリランカ発祥の歴史を秘めて横たわる古代遺跡、アヌラダプラ。ここには、世界最古の菩提樹が繁るスリ・マハ聖菩提樹寺があります。(写真⑬)インドブタガヤの分け枝で、紀元前三世紀にアソカ王の王女サンガミッ

さて、参拝団の一行は、こうして多くの仏跡を巡拝して帰国したわけですが、同行した女優の浜美枝さんは「世界中、いろんなところを旅しましたが、東洋の神秘の原点にふれたいま、何か人生観が変わつたような感じがします。来年もぜひ訪れたい」と感激。門徒の鬼原、佐々木、谷口、川瀬、栃沢、大藪、岩上、古田さんたちも「ありがたかった。すばらしかった。生涯のいい思い出ができました」とよろこんでおられました。



おまいりもちよつと一服、一行はヒマラヤ山系遊覧飛行でネパールの休日を満喫しました。

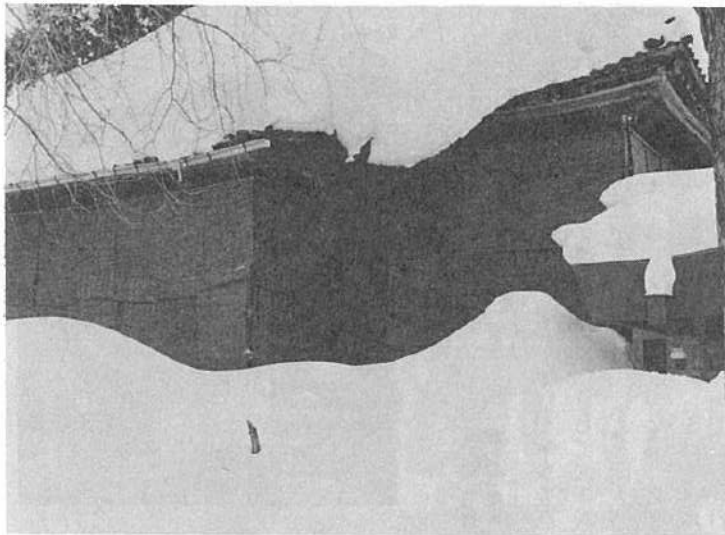
エベレスト！ さすが世界最高峰、八八四八メートルの偉容は息をのむ迫力でした。

(写真⑧)



タによってこの島へ運ばれたといわれます。

またこのアヌラダプラには仏舍利塔では世界最大のルバンバリセヤ大塔(写真⑭)、のほ



雪害

本堂大屋根 庫裡 大被害

今年の大雪と寒波で、寺の本堂や庫裡は大被害をうけ、三月二十日に開かれた臨時総代会では、早急に大がかりな修復に乗り出すことが決まりました。



事故が発生。建具屋にこれのとりかえをたのんで、まずひと安心。ところが今度は本堂です。大屋根が凍結によって老朽化した瓦がしめつけられ、これが一度に落ちたものから、弱っているところすべ

てが、割れたり、飛ばされたり、元から折れたり。降りつづく雪のため、応急の処置もとれないでいるところへ、寒気がゆるんで本堂内部、とくに内陣余間はザザもれの状態。



また、今後の方策については、少数の専門委員に委嘱して検討してもらい、四月中には再び臨時総代会を開いて、具体案をかためることになりました。

臨時総代会で対策を検討

壁を落としたり、天井が雨水で下がるという事態が発生、二月にはいつてようやく、原因が雨などの凍結や破裂によるものかわかり、さっそくこのとりかえ作業にとりかかりました。



けといった状況です。このため、太子会に集まった総代会や建設関係者は被害の状況を検討し、早急に根本的な対策を考えるようにという強い意向をのべられ、これをうけて、さっそく、三月二十日の教化推進協議会の総会を、臨時総代会に切り替えて、この雪害対策について協議しました。

その結果、庫裡については、一般会計で処理をして、本堂大屋根については、単なる古瓦のしめ直しでは無理という結論に達し、根本的な修復工事をすべきであるということ意見の一致をみました。

臨時総代会のあと、専門委の方々が再三三合を開かれ、改修の様式について、瓦か、銅板か、銅瓦か、装飾はどのようにするかなどが検討され、現地視察にも出向されました。



この結論は四月上旬に出る見込みで、様式が決まり次第、予算、募財の計画がまとまるわけで、遅くとも四月末までには、本堂大屋根改修工事の総合計画案が出される予定です。

門徒の皆様にはまた多大のご負担がかかるでしょうが、どうかよろしく協力下さいますようお願いいたします。

教化活動 年間二四〇日の盛況

第二回教化推進協議会の総会は三月二十日開かれ、五十八年度の寺の教化活動をふりかえるとともに、五十九年度の事業案をまとめました。

それによると、この一年間の寺の教化活動は、お講(年間二二回)を中心に、祠堂会(七日間)報恩講(二日間)ご正忌(四日間)という大事な三つの法座に加えて、昨年からの明教院の法要である「空華忌」がはじまったこと。さらに四月二十九日の「慶びの春」六月の特別法座、夏の一滴聞法などが六回にわたって催され、新しい法

座活動が定着し、盛況をみるようになってきたことが確認されました。

一方、お経の会(年間二二回)

教化推進協議会総会

3月20日

などの教化団体の活動も着実に成果をあげており、中でも夢を語る会(年一六回)はこの一月に新川地域発展賞という思わぬごほうびをいただいたり、若婦人会(年一二回)は、この五月二十七日に行われる別院開創百周年記念大会に合唱団の一員として出演が決まっ

たりで、よろこびのタネが年々ふえてきています。そして昨年うぶ声をあげた白鶴会も、今年役員を改選して、本山

の仏教婦人会に正式登録され、いよいよこれからの活躍が期待されています。

また、日曜学校(年一八回)は寺と子供のつながりを密にして、花まつりや盆踊りなど数々のたのしい催しを行っています。それから忘れてならないのは、ことばの

酒宴の席での現住職の亡父を偲ぶ挨拶が、心情こもったいい話だった。

越前の蟹、香箱の美味は、何時

食べても、珍味である。

三時半、真宗寺を辞して

興源寺に赴く。小生の母の生

まれた寺であり、幼年時より母に連れられて毎年のように、八月

夏休みを過ごした記憶が懐かしい寺である。

住職は、小生より八才年少。小学校一年の孫がある。本年、本堂

久し振りの対面である。此の寺の前住は、私のいとこに当るのだが、福井空襲で本堂、庫裡全焼、やつと仮本堂が出来た途端に福井大震災で倒壊。度重なる災害にも拘らず本堂、幼稚園、門徒会館、住職私邸と、羨ましい程立派な諸設備が完備され、満堂の門徒衆がその遺徳を偲んで合掌している姿に接し、感慨深いものがある。

福井県には、所謂「御連枝寺」が多く、連如上人由緒の寺々の住職も参加しておられる。法要参加の法中の中で、何時の間にか小生は最年長になっている。



住職日記

無惨やな 残雪の山

五つ 六つ

漸くに 雪解けの音

窓 開く

教室雪ん子劇団。その活躍はめざましく、昨年は新世紀博の出演やこどもフェスティバルの三年連続受賞に輝き、今年は三月二十六日の別院こども大会、さらに五月二十七日の別院百周年記念五〇〇〇人のつどいに出演が決まるなどこどもたちも大はりきりです。

さて、このほか寺の教化活動としては、門徒報恩講まわりが行われ、のべ五十六日間五五〇軒の門徒さんをまわらせていただきました。そして門徒さんの法事、寺参り、これも数えてみるとこの一年一二〇件にのびりました。

これらを合わせてみると、およそ三四〇日、お寺では何らかの形で教化活動が行われているということになり、繁盛な寺という評価

修理の大事業を完成し五月末には、慶讃法要に出動を求められている。寺院経営の話、門徒の世代更新の話など、寺をあずかる者同志の話は尽きない。

芦原温泉に向う。古い旅館に案内される。

近頃出来のホテル式豪華旅館に比べて古めかしい風格の旅館、此処では、鴨料理の御馳走になる。いい気持ちに酔払って、九時就床

漸くに 雪解けの音

窓 開く

無惨やな 残雪の山

五つ 六つ

寺
ごよみ

六月

に恥じない活動が展開されていることをよろこび合いました。なお、五十九年度の事業は、これまでの行事に加わって、八月十四日にお盆の法座を催すことが決まり、寺の年中行事がまた一つふえることになりました。

また夢を語る会では、今年発会七周年を迎えますので、その記念として野休み野あがり両落語会に加わって、秋には津軽三味線の高橋竹山を聞く会を催すそうです。どうぞこれからも、みなさんおさそい合わせの上、お寺に足をお運び下さい。教推協一同、心からお待ちしております。

一日 お講・東狐上野 この日白鶴会の特別法座があり、今年も利井興弘師に出講願います。

一六日 お講・音沢

二〇日 野休み落語会

今年七回目を迎え、おめでたい会となります。七回目がなぜメデタイかというと、おしゃか様が誕生の時七歩あるかれたというのと同じで、迷いの六道を越えたからメデタイというのでありまして、そういう意味から、今年の落語会は、「七回喜」でありまして、どうぞウキウキとお運び下さいませ。くわしくは八頁にご案内し。

別院百年法要に 善巧寺総動員

別院百年に慶讃法要は、両門主を迎えて、いよいよ五月二十六日から三カ日にわたってつとめられ



ますが、この法要に善巧寺は送迎バスを出すなど積極参加いたしましたので、門徒の方もふるってお参り下さいますようお願いいたします。まず、門徒参拝日は二十六日午後のお座。送迎バスも用意され、稚児の募集もしています。またその行列には、上童子の役で、寺のまろはんも出させていただくことになっています。

二十七日は午後から富山市体育館で開催される「よろこびのつどい」に寺の若婦人会が音楽法要の合唱団員として暗れ舞台を踏み、つくパネルデイスカッションでは、若院が司会をつとめ、雪ん子劇団が問題提起のお芝居「うちのとうちゃんえらいんだ」を演じま

白鵠会 新年会開催

白鵠会の新年会が三月十九日開催されました。おつとめのあと、住職から「恵信尼公」の話聞きつづいて若院からは「ひたす

本山仏婦にも正式加盟

ら聞法につとめる」という仏教婦人のあり方についての法話を聴聞。つづいて総会が開かれ、役員を改選して、会長に善巧寺坊守、副会長に法輪寺・照光寺両坊守、門徒代表として本波ひささんが選ば

れ、監事には地区役員と世話方が指名されました。これで白鵠会の新組織が整ったわけで、さっそく同日、本山へ正式に仏教婦人会として登録されることになりました。このあと、宴席がもたれましたが芸達者な方々の歌や踊りで大にざわいでありました。

す。パネラーには、女優の浜美枝さんや、教育評論で高名な吉岡たすく先生らがお出ましになり、最後のアトラクションには春日八郎

七回喜！ 野休み落語会 六月二十日夜

恒例の「六輔七転八倒 うらやま野休み落語」は六月二十日夜、善巧寺の本堂で開催されます。

出演はおなじみの超一流どころで、永六輔さんの司会で、結婚一年、真打ちねらいの入船亭扇好さん。その師匠で俳句の宗匠で、今年はまだまた芸術選奨受賞に輝く入船亭扇橋師匠。ハチハンではな

お代は例のザル回し。一回五百円でいどで二回というのがどうやら相場となっているようで、いや、もっと多くてもかまわないんですけれど、まあ、とにかく、そんじよそこらでお目にかかれない出し物ですので、是非ともご家族おそろいでお越し下さることを願っております。

ご用心 訪問販売

近頃は訪問販売の時代のようにいろんなセールスマンが各家庭に押しかけています。買う買わないはご自由ですが、中には宗教的な色をつけて、縁起がいいとか、これを買わないとたるとか、根も葉もない理屈をつけてくるのがいるのでご用心。それに新宗教の勧誘も困りもの。真宗門徒の自覚を新たにしたいものです。

善巧寺の常例行事

お経の会	婦人会	壮年会	雪ん子劇団	日曜学校	お講
毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日
毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日
毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日

合 掌

おしゃか様の教えを二千数百年聞きつづけ、守りつづけている国スリランカで、小学校一年の算数の教科書を見せてもらったら、なんと分数の計算をやっている。

進んでるなあと思いがたふと思ったことですが、この分数というのは仏教のものの考え方にとりなんですね。1+1=2ではなくて、大事なのは1+1=1なんですね。

つまり、私たちはすべてが自分中心で、自分を一人前と思っていますが、たとえば夫婦は一プラス一ではなくて、半分と半分が寄って一つの夫婦となる。家族だって一と一というふうには足してゆくと角が立つけど、五人なら、五分の一が五つあつまって一つの家族と考える。これ、とっても大事なことなんじゃないかと思うわけです。

仏教の根本は「縁起」の世界です。あらゆるものがあつまって、互いに助け合って存在しているという世界。一度この人生、分数で計算しなおしてみなくちゃなりませんね。

